

新井 孝重 先生 略歴



1950年1月 埼玉県に生まれる。

学歴

- 1968年3月 獨協高等学校卒業
- 1973年3月 早稲田大学第一文学部卒業
- 1976年3月 早稲田大学大学院史学研究科修士課程修了
- 1983年3月 早稲田大学大学院史学研究科博士課程満期退学
- 2001年11月 文学博士（早稲田大学）

職歴

- 1980年4月 獨協中学高等学校専任教諭（1993年3月まで）
- 1986年4月 早稲田大学第一文学部非常勤講師（1987年3月まで）
- 1987年3月 獨協大学教養部非常勤講師（1993年3月まで）
- 1988年4月 早稲田大学第一文学部非常勤講師（1990年3月まで）
- 1990年10月 NHK文化センター講師（1991年3月まで）
- 1993年4月 獨協大学経済学部助教授（1998年3月まで）
- 1994年4月 早稲田大学第一文学部非常勤講師（1996年3月まで）
- 1998年4月 獨協大学経済学部教授
- 2020年3月 獨協大学定年退職
- 2020年4月 獨協大学名誉教授

役職

- 1993年4月～2005年3月 日高市文化財審議委員会委員
- 2005年4月～（現在） 同委員会委員長
- 2003年9月～2004年3月 東京大学史料編纂所研究員
- 2004年4月～2004年9月 中国復旦大学地理歴史研究所客座研究員
- 2006年4月～2010年3月 獨協大学経済学部学部長

2006年4月～2010年3月 獨協学園評議員
2007年4月～2012年3月 獨協学園資料センター所長
2009年10月～2019年10月 早稲田大学史学会評議員
2012年6月～（現在） 高麗郡建郡1300年記念事業委員会 有識者会員
2013年9月～（現在） 高麗浪漫学会理事

主要研究業績

学位論文

修士論文「軍事力から見た南北朝内乱の歴史的位置」（1976年概要雑誌掲載）

博士論文「東大寺領黒田荘の研究」（2001年公刊）

著書

〈単著〉

- 1) 『中世悪党の研究』吉川弘文館、1990年、全300頁
- 2) 『悪党の世紀』吉川弘文館、1997年、全210頁
- 3) 『東大寺領黒田荘の研究』校倉書房、2001年、全455頁
- 4) 『黒田悪党たちの中世史』日本放送出版協会、2005年、全288頁
- 5) 『蒙古襲来』吉川弘文館、2007年、全278頁
- 6) 『楠木正成』吉川弘文館、2011年、全256頁
- 7) 『日本中世合戦史の研究』東京堂出版、2014年、全442頁
- 8) 『護良親王』ミネルヴァ書房、2016年、全324頁
- 9) 『中世日本を生きる 遍歴漂浪の人びと』吉川弘文館、2019年、全228頁

〈共著共編〉

- 10) 『鎌倉遺文』索引編Ⅰ、東京堂出版、1984年（共編）
- 11) 『鎌倉遺文』索引編Ⅱ、東京堂出版、1986年（共編）
- 12) 『鎌倉遺文』索引編Ⅲ、東京堂出版、1989年（共編）
- 13) 『鎌倉遺文』索引編Ⅳ、東京堂出版、1992年（共編）
- 14) 『100問100答日本の歴史』、河出書房新社、1995年、全282頁中16頁（共著）
- 15) 『宗像市史』、宗像市、1999年、全1097頁中75頁（共著）
- 16) 『獨協学園史1881-2000』獨協学園、2000年（共著）
- 17) 『東大寺文書を読む』思文閣出版、2001年（共著）
- 18) 『草加市史』草加市、2001年（共著）

学術論文

〈単行本〉

- 1) 「鎌倉時代の漂泊民信仰と悪党」（民衆史研究会編『民衆史研究の課題と方向』）三一書房、1973年
- 2) 「伊賀国黒田荘の構造とその変化」（竹内理三編『荘園制社会と身分構造』）校倉書房、1980年
- 3) 「楠木氏の出自—猿樂集団との関連—」（佐藤和彦編『楠正成のすべて』）新人物往来社、1989年
- 4) 「南北朝内乱の評価をめぐって」（峰岸純夫編『争点日本の歴史』4）新人物往来社、1990年
- 5) 「青野原の決戦」（佐藤和彦編『ばさら大名のすべて』）新人物往来社、1990年
- 6) 「悪党はなぜ発生したか」（峰岸純夫編『新視点日本の歴史』4）新人物往来社、1993年
- 7) 「伊賀国黒田荘」（坂本昇・佐々木虔一編『地図でたどる日本史』）東京堂出版、1995年
- 8) 「中世民衆の一揆と武力」（歴史教育者協議会編『前近代史の新しい学び方』）青木書店、1996年
- 9) 「山の民—一杣工がつくる荘園の村—」（佐藤和彦編『中世の民衆』）東京堂出版、1997年
- 10) 「中世成立期の杣をめぐる地域的構造」（民衆史研究会編『民衆史研究の視点』）三一書房、1997年
- 11) 「大仏再建期東大寺経済の構造—重源上人の経済外的活動との関連で—」（鎌倉遺文研究会編『鎌倉時代の

政治と経済』東京堂出版、1999年

- 12) 「悪党と宮たち—下剋上と権威憧憬—」(村井章介編『南北朝の動乱(日本の時代史10)』)吉川弘文館、2003年
- 13) 「建武政権の特質」(佐藤和彦・樋口州男編『後醍醐天皇のすべて』)新人物往来社、2004年
- 14) 「南北朝動乱と『太平記』」(関幸彦編『武蔵武士団』)吉川弘文館、2014年
- 15) 「南北朝の動乱と『太平記』—三浦氏の動きをみる—」(関幸彦編『相模武士団』)吉川弘文館、2017年

〈学術雑誌〉

- 1) 「中世国家研究の一視角—イデオロギー—」、『民衆史研究会会報』7号、1975年
- 2) 修士論文・「軍事力から見た南北朝内乱の歴史的位置」(概要)、『早稲田大学文学研究科紀要』22号、1976年
- 3) 「宗像氏の五月会神事と郡内支配」、『民衆史研究会会報』8号・9号、1978年
- 4) 「黒田荘悪党期大江氏に関する二つの観察」、『日本社会史研究』18号、1978年
- 5) 「中世における村落と悪党」、『史観』105冊、早稲田大学史学会、1980年
- 6) 「平安時代中期における黒田荘をめぐる在地情勢」、『獨協高校研究紀要』7号、1983年
- 7) 「南北朝内乱戦力論ノート」、『獨協高校研究紀要』8号、1983年
- 8) 「中世成立期寺院修造構造の展開—平安時代の東大寺をめぐる—」、『獨協大学教養諸学研究』24号、1989年
- 9) 「中世前期東国武士論おぼえがき」、『草加市史研究』6号、1989年
- 10) 「伊賀惣国一揆おぼえがき」、『獨協高校研究紀要』12号、1990年
- 11) 「病い・漂泊・芸能の構造—中世民衆生活論のこころみ—」、『獨協大学教養諸学研究』26巻2号、1992年
- 12) 「太平記の時代と群像」、『話』財団法人通信協会NO.441、1991年
- 13) 「反逆・風刺の中世芸能」(1)、『三省堂高校通信』3号、1992年、「反逆・風刺の中世芸能」(2)、『三省堂高校通信』4号、1992年
- 14) 「中世社会における民衆の武力」、『歴史評論』511号、1992年
- 15) 「悪党はなぜ発生したか」、『新視点日本の歴史』4・中世編、新人物往来社、1993年
- 16) 「南北朝内乱と悪党」、『歴史教育と歴史学』、1993年
- 17) 「戦後歴史学の軌跡と「いま」」、『日本の科学者』328号、1995年
- 18) 「伊賀国にみる雑役免系荘園の運動構造」、『獨協経済』第61号、1995年
- 19) 「九州に渡った武蔵武士—宗像郡佐々目氏のこと—」、『草加市史研究』11号、1998年
- 20) 「『武蔵藤原内田之系譜』考—戦国期土豪系図にみる遠江内田氏の軌跡—」、『日本歴史』日本歴史学会、607号、1998年
- 21) 「興良・常陸親王考」、『獨協経済』第74号、2001年
- 22) 「中世の言語生活」、『獨協経済』第80号、2005年
- 23) 「世界史」に接触した中世の日本列島—モンゴル戦争論のこころみ—」、『獨協経済』81号、2006年
- 24) 「16世紀関東における戦国社会の—様相—北武蔵秩父衆の動向を中心に—」、『獨協経済』84号、2007年
- 25) 「大村仁太郎の教育思想にみる『近代』の可能性」、『獨協学園資料センター研究年報』創刊号、2009年
- 26) 「黒血川以後の北畠顕家」、『獨協経済』第87号、2009年
- 27) 「獨協学園における周年史編纂と資料センター」、『大学史活動』第31集、明治大学史資料センター、2010年
- 28) 「古代高麗氏存在形態」、『日本歴史』749号、日本歴史学会、2010年
- 29) 「元弘以前の楠木正成」、『獨協経済』第90号、2011年
- 30) 「中世地侍自治の誕生—伊賀国に発生した1347年の一揆から—」、『日本の科学者』Vol.48 No1通巻540号、2013年

- 31) 「元弘3年京都合戦の社会史的意味—赤松・足利の軍事行動を中心に—」、『獨協経済』第92号、2013年
- 32) 「中世の民間武装民・悪党—悪党の生態を歴史的にみる—」、『歴史地理教育』2月号、歴史教育者協議会、2015年
- 33) 「中世『前期的資本』の一考察—野間内海荘の『長者』長田庄司忠致を中心として—」、『獨協経済』第99号、2016年
- 34) 「研究最前線・主要人物の論点」「護良親王」、『歴史REAL』特集〈南北朝〉・洋泉社、2017年
- 35) 「中世王権論の現在—兵藤裕己『後醍醐天皇』によせて—」、『獨協経済』第103号、2018年
- 36) 『『不思議』の人・楠木正成』、『アナホリッシュ国文学』第8号、2019年

覚書・史料紹介

- 1) (覚書) 「縁者境界」、『鎌倉遺文』15巻月報、1978年
- 2) (史料紹介) 「中世の焼畑史料について」、『獨協高校研究紀要』6号、1982年
- 3) (覚書) 「鮎鮠と悪党」、『鎌倉遺文』26巻月報、1984年
- 4) (覚書) 「凡下の戦力」、『南北朝遺文』4巻月報、1985年
- 5) (覚書) 「大森彦七のこと」、季刊・子規博だより(松山市立子規記念博物館)、1991年
- 6) (覚書) 「伊賀国の古道を歩く」、『獨協大学学報』22号、1994年
- 7) (覚書) 「中世武蔵の武士と農村—西遷地頭佐々目氏の生活から—」、『獨協大学学報』25号、1998年
- 8) (覚書) 「楠木正成の軍事力—軍団構成にみる楠木軍の勢力拡大過程—」、『歴史読本』44巻6号、1999年
- 9) (史料紹介) 「峯相記」、『歴史と地理』540号、2000年
- 10) (覚書) 「勸進上人重源の活動からみえるもの」、『歴史書通信』No.144、2002年
- 11) (覚書) 「中世草加地域の人びと—『草加市史』の仕事から—」、『ネットワーク経済』2号、2001年
- 12) (覚書) 「中国大陸の視座から—東アジア交通世界をながめる—」、『ネットワーク経済』Vol.8、2004年
- 13) (史料紹介) 「獨逸学協会学校専修科生徒の顔」、『獨協経済』第83号、2007年
- 14) (史料紹介) 「二条河原落書」、『歴史と地理』218号、山川出版社、2007年、28~34頁
- 15) (覚書) 「楠木合戦の『元弘二年』」、『本郷』No.97、吉川弘文館、2012年
- 16) (史料紹介) 「甲二二百領の『過料』」、『獨協経済』第94号、2014年
- 17) (覚書) 「皇族武将護良親王の悲劇をみる」、ミネルヴァ通信「究」第68号、2016年

書評・解説

- 1) 「1979年の歴史学界—回顧と展望—」、『史学雑誌』89編5号、東京大学史学会、1980年
- 2) (書評) 佐藤和彦『南北朝内乱史論』、『日本歴史』390号、1980年
- 3) (書評) 「石母田正『中世の世界の形成』を読む」、『獨協高等学校研究紀要』10号、1986年
- 4) 「1991年の歴史学界—回顧と展望—」、『史学雑誌』101編5号、1992年
- 5) (解説) 「日本史史料の基礎知識」、『別冊歴史読本』614号、1994年
- 6) (書評) 佐藤和彦『日本中世の内乱と民衆運動』、『日本歴史』590号、1997年
- 7) (書評) 佐藤和彦『日本中世の内乱と民衆運動』、『日本史研究』420号、1997年
- 8) (書評) 「中世悪党論の現在—『悪党の中世』に寄せて—」、『民衆史研究』58号、1999年
- 9) (書評) 悪党研究会編『悪党の中世』、『日本歴史』612号、1999年
- 10) (書評) 漆原徹『中世軍忠状とその世界』、『古文書研究』50号、日本古文書学会、1999年
- 11) (書評) 小林一岳『日本中世の一揆と戦争』、『日本歴史』651号、2002年
- 12) (書評) 山陰加春夫『中世寺院と「悪党」』、『史学雑誌』第116編第4号、東京大学史学会、2007年
- 13) (解説) 「天野貞祐—著作と思想の展開—」、獨協大学図書館開館記念展示解説、2007年
- 14) (解説) 『『悪党』を読む』(〈読みなおす日本史〉小泉宜右『悪党』巻末)、吉川弘文館、2014年

- 15) (解説)『『日本人の名前の歴史』を読む』(〈読みなおす日本史〉奥富敬之『日本人の名前の歴史』巻末)、吉川弘文館、2018年

一般概説・辞典

- 1) 『日本史用語辞典』(項目執筆)、柏書房、1978年
- 2) 「正儀以後の楠木一族」、『歴史読本』27巻6号、1982年
- 3) 「船上山を支えた名和湊の長者」(〈日本史の舞台4〉『吉野の嵐・動乱の炎』)、集英社、1982年
- 4) 『日本大百科全書』(項目執筆)、小学館、1984～1989年
- 5) 『史籍解題辞典』上巻(古代・中世)(項目執筆)、東京堂出版、1986年
- 6) 「後村上天皇―見果てぬ回帰―」、『歴史読本』32巻17号、1987年
- 7) 「楠木正成の拳兵」(『戦乱の日本史』第5巻)、第一法規、1988年
- 8) 「湊川の悲劇」(『戦乱の日本史』第5巻)、第一法規、1988年
- 9) 「千早・赤坂の戦い」(『歴史群像・戦乱南北朝』)、学研、1989年
- 10) 「楠木正成、縦横無尽の『凡下』戦術」(『歴史群像・戦乱南北朝』)、学研、1989年
- 11) 「源平争乱のもう一つの武闘勢力」(『歴史群像・源平の興亡』)、学研、1989年
- 12) 『日本地名大辞典』29・奈良県(項目執筆)、角川書店、1990年
- 13) 「内乱を生きる」(『〈太平記〉の世界』)、読売新聞社、1990年
- 14) 「青野原の戦い」、読売新聞社、1990年
- 15) 「南北朝時代を考える」、えぬぶん(NHK文化センターニュース)、1990年
- 16) 「中先代の乱」(『ピクトリアル足利尊氏・南北朝の争乱』2)、学研、1991年
- 17) 「建武の乱」(『ピクトリアル足利尊氏・南北朝の争乱』2)、学研、1991年
- 18) 「楠木正成一内乱に放つ光彩―」、『歴史読本』36巻11号、1991年
- 19) 『日本歴史人物事典』(項目執筆)、朝日新聞社、1994年
- 20) 『日本歴史大辞典』(項目執筆)、小学館、2000年
- 21) 『歴史学事典』9〈法と秩序〉(項目執筆)、弘文堂、2002年
- 22) 『日本文化史ハンドブック』(項目執筆)、東京堂出版、2002年
- 23) 『日本荘園史大辞典』(項目執筆)、吉川弘文館、2003年
- 24) 〈征夷大将軍総覧〉「護良親王」「成良親王」「宗良親王」、『歴史読本』48巻6号、2003年
- 25) 「後醍醐天皇と名和長年」、『司馬遼太郎街道をゆく』no.49、朝日新聞社、2005年
- 26) 「歴史の舞台 壱岐・対馬を歩く」(『新発見!日本の歴史』20〈鎌倉時代3〉)、朝日新聞出版、2013年

その他

- 1) インタビュー「民衆史の現在―新井孝重さんに聞く―」、『民衆史研究会会報』53号、2002年
- 2) 獨協歴史ギャラリー監修・THE HISTORY OF DOKKYO、獨協学園資料センター、2007年3月
- 3) 企画展「大村仁太郎展―よみがえる明治期獨協の教育精神―」、獨協学園資料センター(同センター『研究年報』第3号、2011年収録)、2008年3月
- 4) 座談「大久間喜一郎先生に聞く―獨協の戦中と戦後―」、『研究年報』第2号、獨協学園資料センター、2009年
- 5) 評論「関と天野 二人の邂逅」、『獨協大学学報』第26号、2010年3月
- 6) 企画展「獨逸学協会学校と文化芸術家たちの群像」、獨協学園資料センター、2010年10月31日～2011年4月30日
- 7) 座談「高梨富士三郎 天野体制と切り結ぶ」、『資料センター研究年報』、獨協学園資料センター、2011年3月

- 8) 鼎談「新宮譲治先生 獨協埼玉高等学校開校前後のこと」、『獨協学園調査研究資料センター』第4号、2012年3月
- 9) シンポジウム「中世荘園の基層」発言、『中世荘園の基層』、悪党研究会編、岩田書院、2013年12月、112～113ページ